

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503189		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	グループホームハートハウス南円山(プロヴァンス)		
所在地	札幌市中央区南10条西23丁目2-13		
自己評価作成日	平成24年8月	評価結果市町村受理日	平成24年11月20日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170503189&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然と都会を調和した南円山地区に、昨年平成22年10月1日に開設致しましたグループホームです。
 3階建ての建物で、1階は地域交流スペースとして、地域の方々との交流の場とし近隣地域の方々に利用して頂く為、ご用意致しました。
 ご入居者様には慣れ親しんだ都会生活を継続して頂く為、中心部への個別外出や行事を大事にし、又、自然の多い環境を十分に感じて頂くような生活をして頂いております。
 介護度が平均1.55と軽度の方が多く、自立された生活を送られている中で、個々の生活を充実していただく支援を心掛け、介護度の維持をしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南円山地区の閑静な住宅地に建つ3階建ての瀟洒な事業所で、1階は町内会や近隣住民に無料開放している地域交流スペースになっており、町内会の依頼で「認知症予防」講座を開催し好評を得ている。2・3階がグループホームで、居間の大き(開放的な窓からは、犬と散歩する人達や近くの公園で遊ぶ子供達が見え、住み慣れた地域での生活が身近に感じられる。住宅地ではあるが、近くにはスーパー・レストラン・ホームセンター・小中学校や交番等があり利便性も良く、日常的に買い物や散歩に出かけている。また市中心部の銀行ホールでは、系列グループホームと共同で、利用者の手芸や習字等の作品展を開催し、地域に向け積極的に発信している点は大変評価できる。運営推進会議は2カ月に一度定期開催し、防災・事故報告・地域との交流等、活発な意見交換が行われており、参加者も多い。管理者及び職員は豊かな知識と経験で、見守り支援を実践しており、入居後は以前の元気を取り戻し、明るくなった利用者もあり、家族の信頼も厚い。恵まれた住環境の中で利用者をやさしく支え、地域に根ざした家庭的で暖かい、地域密着型事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	○
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	○
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	○
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざし、その人らしい生活を支援する理念を作り、職員間では、地域の一人として入居者様に関われるよう、外部とのふれあいの場を作っています、又、ケアプランに反映もしております。	事業所独自の理念『地域に根ざし、交流を深め、支えあう暮らしの中で、一日一笑』は共用空間に掲示し、パンフレットにも記載している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会との交流(総会、運営推進会議、防火訓練)等を通じ、町内会主催の講座を担当させて頂いたり、入居者様と共に、町内会活動(子育てサロン、運動会、清掃等)に参加させて頂いております。	地域行事の新年会や子育てサロンに参加し、事業所の防災訓練・認知症予防講座には、地域住民が参加しており、ボランティアの訪問も多い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活の様子を運営推進会議や防火訓練で報告する事で、認知症の方の理解を求めています。又、町内会主催の講座『認知症予防』を担当させて頂きました。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、日常生活の様子、事故報告、ご意見苦情報告等を行い、町内の方やご家族様よりご意見を頂いております。又、警察署・消防署の方にも参加頂く事もあり、ご意見を職員間で共有し、意識の向上に繋げています。	定期開催している運営推進会議には、利用者・家族・地域代表・地域包括支援センター職員・警察官等が出席し、事故報告・地域との交流・防災計画等が話し合わせられ、議事録は利用者家族に送付している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や各区の連絡会議に出席し、他事業所の方々との交流や情報交換しサービスの向上に努めています。また市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	行政担当者とは活動状況報告など連絡を密にし、消防・警察・地域包括支援センターなど、関係機関の助言を得てサービスの向上に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修、マニュアルを通じ、職員一同日頃より努めております。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっている。全職員は研修会で研鑽し、拘束のない自由な生活を支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止システムによる研修会に職員が参加(全員参加)し理解浸透に努めています。法令遵守に向けた研修も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修により理解を深めるよう努めています。必要性がある場合にはその都度関係機関と協力していける様、体制を整えています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧に説明させて頂き、入居者様やご家族の疑問や不安をお聞きし、理解納得した上でサインを頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や年に1度、ご家族様へのアンケートを行い、意見要望等を取り入れ反映させています。	家族の来訪時には話し合いをしている。運営推進会議には家族の出席も多く、意見や要望は運営に反映しており、事業所独自の家族アンケートの結果は、ケアサービスに効果を上げている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の愛全会管理者連絡会議があり意見要望を伝える機会を設けて、反映させています。また年2回自己申告書により職員の意見や提案を聞く機会があります。	管理者は、会議や日常の業務を通じて職員の意見や要望等を聞き、月1度開催する運営母体の管理者連絡会議に出席し、運営本部に伝えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己申告書・人事考課し、面談を行っています。必要に応じ、随時個人面談実施に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた(新人・現任・計画作成者・管理者)内部研修を行うと共に、中央区でのスタッフ研修や外部での研修の情報を収集し受講できるようにしています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区連絡会の参加を始め、法人グループホームとの勉強会、委員会、各ユニットへの実習研修を行い、互いに意識を持ってサービス向上に活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。</p>	<p>入居前にご本人とお会いし、ご家族様を交えたお話しする場を設け、必要に応じ、事前見学(ご本人含)を行い、馴染みの関係を入居前に少しでも築ける様、努力しています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご家族様とお話しさせていただいています(見学、実態調査等)。出来る限り、連絡を取りお話しする事で、ご家族様の心情を伺えるよう努力しています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族様の思いや現状を出来る限り、引き出す努力をし、その人らしいケアプラン作り、ご家族様が安心して頂ける様に努めています。又、常時思いを伺う事でケアプランに活かしています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の主役がご本人である事を職員間で強く認識し、ご本人のペースに合わせた生活をする事で、疑似家族な関係になるよう努めています。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様とは、面会時、電話連絡等で常に連絡をさせて頂き、情報交換をする事で、共有の時間を大事にし、共にご本人の生活の支えになれる様努めています。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人の生活習慣を変えないよう、友人の来訪や外出をご家族様に限らず、職員も一体となり、支援しています。入居前から通われていた美容室への支援やデイサービスを継続し続けるよう努めています。</p>	<p>ひなまつり・お月見・母の日・父の日等の、日本古来の季節行事を大切にしている。馴染みの美容室利用や、友人とホテルで食事をする等、自由な外出支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご本人同士が交流を持てるよう、レクリエーションや外出の場を作っています。又、個々での交流の場も大事にして頂ける様、環境を作り、時に職員の仲介にて、関係作りをしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後にも、病院へのお見舞いや関係機関を通し、ご家族様へ挨拶等させていただきます。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活状況を踏まえ、アセスメントを行い、日々の関わりで、ご本人の表情、言動、行動を観察する事で、ご本人の希望を聞き入れ、又、思いを引き出すよう努めています。	センター方式を利用したアセスメントを行い、利用者・家族の意向や要望を聞き、医師・看護師の意見等を参考としながら、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からの情報収集に日々努めています。又、ご入居時には、ケアマネージャー等から過去の様子を伺っています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々自由に生活して頂く環境を作り、ご本人の言動、行動から生活リズムを作って頂ける様、努めています。又、体調や気分に合わせて家事、趣味活動をして頂く事で、アセスメントに活かしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント(センター方式)を行う事で、常日頃より情報収集に努め、ご本人を支える全員で、より良い介護計画書を作る努力をしています。	日頃の関わりの中で利用者の希望を聞き、また家族から情報を得て介護計画を作成している。変化が生じた場合は随時見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をケアプランを基に記録し、モニタリング・評価や必要に応じ、記録を用いたアセスメントを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望も含め、ご家族様の状況に合わせて受診や美容室等、職員にて対応させて頂く事もあります。又、ご本人ご家族様から気軽に依頼して頂ける関係づくりに努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりの中として、町内会活動には、積極的に参加させて頂いています。又、近隣の美容室やスーパー、レストラン等、日常生活の中で利用しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師、看護師との密な医療連携を行う事で、ご本人ご家族様が安心して受診を継続できるように努めています。	利用者は昔からのかかりつけ医を受診しており、通院時の付き添いや送迎をしている。また個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理(訪問看護師)の際には、心身の状態について報告し、助言を頂いております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に介護情報を書面、口頭で提供しています。又、ご本人の状態に合わせた退院に向け、医療関係相談員、ご家族様と相談、話し合いを行っています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴うケアについて説明を行い、医療連携を十分に活用し、ご本人ご家族様にとって最良のケアを行うよう努めています。	重度化や終末期の方向性については、早い段階から文書で確認し説明している。家族・医師・全職員で方針を共有し、チームとして支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での緊急対応研修を定期的に行っています。又、事業所内での連携を用いた緊急対応に努めています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練の実施を基に、入居者様、近隣の方を交えた避難訓練を実施しています。	年2回消防署の協力のもと、利用者や近隣住民と共に避難訓練を行っており、町内の防災訓練にも参加している。食料品・缶詰・飲料水等の備蓄もしている。	万が一の災害に備え、地震や台風等を設定した防災訓練の実施を期待したい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が安らげる声かけを心掛けています。又、ご本人の羞恥心に十分配慮し、ケアにあたっています。	プライバシーや尊厳に関わる事は、周囲に配慮しながら行ってる。個人情報管理室で適切に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との信頼関係を築く努力を、日頃より心掛け、ご本人が訴え易い雰囲気作りをしています。又、個人の状態に合わせ、気持ちを読み取る努力に努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や気分に応じ、食事時間や入浴を行えるように努めています。外出に関しても、勤務時間に囚われず柔軟に対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さり気ない声かけをする事で、整容をして頂いております。定期的にビューティーボランティアにも参加しお洒落心を大事にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のふれあいから、ご本人の嗜好を聞きだす事に努めています。家事を仕事として行う方、楽しみとして行う方、それぞれに応じた声かけをしています。	利用者の意見や嗜好を取り入れた献立を作成している。調理・盛り付け・片付け等を一緒に行い、共にテーブルを囲み和やかに食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立メニューを提供しています。体調や気分による食欲減に関しては、別メニューや好みの物を用意し対応し、時に医師と相談の上、栄養剤の服用をして頂きます。水分量の摂取を1日1300ccを目安にご本人が摂取しやすい工夫をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きへの声かけ、準備等で行って頂いています。義歯の方への毎晩の消毒を行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、個人の排泄パターンに合わせた、トイレへのお誘い等を行っています。	身体的状況や心理的な負担も検討しながら、自尊心に配慮した声かけと、さりげないトイレ誘導をし、排泄の自立支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を常に意識しています。又、日頃よりレクリエーションを通じて、体を動かす事、血行を促しています。医師へ相談し、下剤調整もしています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺ったりし、入浴して頂くよう努めています。希望に応じ毎日の入浴や夕暮れ時間の入浴も柔軟に対応しています。	一人ひとりの希望や体調に合わせて、リラックスして入浴できるように、支援している。また羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムを把握する事で、リズムが崩れないよう日中の休息時間を取って頂いたり、定期的な巡回にて、室内温度調整を行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方都度の確認をはじめ、必要に応じ薬剤師から指導を受けています。又、定期的な薬についての研修を行い、薬に対しての知識を得、日々のケアに活かしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々笑顔のある生活が送れる支援をしています。個々の特性を認識する事で、その人の喜びとは何かを、アセスメントし、ケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気に触れる事を日々目的とし、出来る限りの外出支援をしています。外出行事等も定期的に行い、出掛ける事の楽しさを味わって頂いています。又、ご家族様の希望により、ご本人の体調に合わせて出来る限り毎日散歩されている方もいます。	昔からの馴染みの場である市中心部の大通公園散策や、豊平川の花火見学に行っており、年間行事の中に外出や外食計画が多数盛り込まれている。事業所の近くには大きな公園があり、利用者や家族の希望により毎日散歩に出掛けている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布管理をされている方に関しては、近隣スーパーでの買い物や、美容関係の支払いを職員同行の元、ご自身で行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、ホームの電話を使用して頂いています。又、ご家族様との手紙のやり取りを支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備に努め、季節に合った装飾や花を飾る事で、安らいで頂く工夫をしています。	安らぎの場であるリビングには、美しい家具や調度品が置かれ、食卓テーブルには生花が活けてあり暖かみのある空間となっている。洗面台は車イスでも楽に使用でき、鏡の後ろは収納棚になっており、随所に工夫が見られる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人こじんが居心地の良い環境を作るよう努めています。ちょっとした空間で、交流が出来るよう、その時に応じ臨機応変に椅子等を提供しています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お一人の時間も大事に過ごせるよう、家具配置や危険防止等、ご家族様の協力を得て、行っています。	壁紙は居室毎に変え、部屋間違いないように配慮している。家族と相談して、家庭から馴染みの調度品を持参し、くつろぎのスペースとなっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内での行動を制限なくして頂く事で、自身で見て行動して頂き、体で覚えて頂ける様、見守りケアを重視しています。		